

男女共同参画社会の形成で 地域社会の発展への貢献を!



本学が文部科学省科学技術人材育成補助事業「女性研究者研究活動支援事業」に採択され、男女共同参画推進室を中心に、優秀な女性研究者を育成し、ひいては地域社会の発展に貢献することを目標に事業を展開することになりました。女性研究者を取り巻く環境整備、研究者支援、若手研究者のキャリアアップの推進に精一杯取り組みます。皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

ごあいさつ

京都府立大学学長 渡辺 信一郎



京都府立大学は、これまで「堅実」な校風をモットーに教育研究を進めてきました。本学の前身のひとつは、1927年(昭和2年)創立の京都府立女子専門学校です。「桂女専」の名で府民に親しまれた本学は、京都府における女子高等教育の推進にあたって先駆的役割をはたし、大学となった今日に至るまで、堅実な女性の社会進出に大きく貢献してきました。このたび文部科学省科学技術人材育成補助事業「女性研究者研究活動支援事業」に採択され、この校風を一層展開する機会を手にすることができました。

本事業の目標は、文学・公共政策・生命環境科学分野において優秀な女性研究者を育成し、地域社会の発展に貢献するところにあります。今後は、男女共同参画推進室を中心に、京都府、京都府立医科大学、府立大学同窓会などの関係機関や組織と連携して、本学の女性教員・若手研究者・卒業生が相互に支えあう女性ネットワークを構築し、男女共同参画社会の形成に向けて、様々な事業を推進してまいります。皆さまのご理解とご協力をお願い申し上げます。

男女共同参画推進室の 開設にあたって

京都府立大学副学長・男女共同参画推進室長
東 あかね



7年後の2020年に東京オリンピックが開催されることに決まりました。1964年の東京オリンピックでは「東洋の魔女」と呼ばれた女子バレーボールの金メダルに日本中が沸きました。その後、マラソン、重量挙げ、レスリングなど、生理学的には女性に不向きと思われる競技においても、日本人女性の活躍が続いています。さらに平均寿命は35年間連続で世界一です。

しかし、世界経済フォーラムが発表した2013年版「男女格差報告」では、日本は136カ国中105位と低く、世界一健康な日本人女性の力が社会で十分に発揮できていません。

1945年、大学が男女共学制が実施されて68年が経過してなお、本学教員の女性割合は16%。最近1年に1%ずつ上昇していますので、この調子でいけば人口割合と同じ50%になるのは34年後の2047年。それは、あまりにも遠すぎます。

事業採択を契機に全学の智恵を結集して、女性研究者支援から、教職員の家庭生活と仕事の両立、協働などに取組み、学生が学びやすく、教職員・男女が共に働きやすい大学にしていきたいと思います。

多様性のある ゆたかな大学へ

昨年10月、男女共同参画推進委員会が設置され委員長に東副学長が、委員に8名の方が就任されました。

男女共同参画推進は 大学の使命です

文学部長 野口 祐子 教授

女性も男性も同等に活躍できる社会が理想ですが、日本の社会はまだ理想からほど遠い状況です。男性の働き方・考え方が主流となっている社会を変えていくために、大学がなすべきことはたくさんあります。このたび本学でも男女共同参画を推進する環境が整いました。本学ではまず若手女性研究者の育成に重点を置いた事業を展開します。啓発イベント・ニュースレターの発行などの身近な啓発活動にも本格的に取り組めます。教職員のみならず、学生の皆さんにも男女共同参画の意義を理解して社会人になってもらうために、活動を積極的に発信していきます。大学が社会を変える力となれるよう、理想の実現に向けて、改めて一步を踏み出しましょう。

職場・家庭・地域の仕事の両立が 可能な社会を作る一助に

文学部 川分 圭子 教授

府大に勤務する一方、皆さんのご厚情の中で二人の娘を育ててきましたが、おかげさまで長女は今年成人しました。この場を借りて御礼申し上げます。今も多くの府大の教職員の方々が、府大の業務を果たされる一方で、育児、介護、自治会の重責など表に出ない無償のお仕事もこなしておられると思います。本委員会の活動が、誰にとっても職場・家庭・地域の仕事の両立が可能な社会を作る一助になればと祈念しております。どうかよろしくお願いします。

委員としての抱負

公共政策学部長 吉岡 真佐樹 教授

学部長として、委員会のメンバーとなりました。本学にとって、男女共同参画推進を目的としてまとめた予算を獲得するのは初めてのことだと思います。本学の状況を十分に把握しながら、予算を適切にまた有意義に活用できるよう努力したいと思います。

同時にこれを機会に、学部としても個人としても、この課題の前進のために現在求められているものは何か、そして今後必要とされることは何か、をより広い視野から議論し検討したいと思っています。どうかよろしくお願いします。

未来につながる想い出

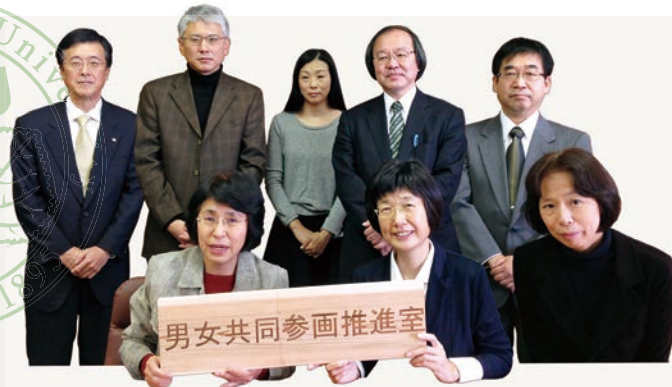
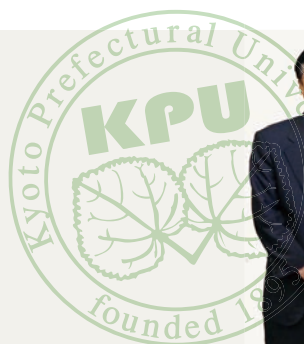
公共政策学部 小沢 修司 教授

本学で「女性研究者支援事業」が開始されました。私自身、本学で女子短期大学部生活経済科から教育研究に従事するようになり30年以上が経過しましたが、赴任当時、上の子は1歳6ヶ月で、住んでいた大津市の三井寺町からオンブして長等商店街を通り朝日ヶ丘保育園に送りどけ急いで大学に向かった情景が思い出されてきました。また、勤めて3年半後には下の子が生まれ、ラマーズ法で出産に立ち会った情景と感動を身振り手振り、講義室の壇上に座り込んで学生たちに説明したことも昨日のように思い出されます。その頃には大津市の唐崎に移り住んでいたのですが、会議で保育園のお迎えが間に合わなくなると、大学から山中越えでタクシーを飛ばしたこともしょっちゅうでした。出産や育児などライフイベントと教育研究との両立が支障なくできるよう男性女性研究者を支援していきたいと思います。

大学は理科教育の終点として 男女共同参画の意識をもった 働きかけを

生命環境科学研究科長 牛田 一成 教授

生命環境科学研究科長として委員会のメンバーになりました。日本に限ったことではありませんが、理系における女性の進出は、生物系に偏りがちです。重化学工業や機械工業などでは、世界的な大企業でも、女性技術者の確保に苦労されていると聞きます。こうした状況は大学だけの努力で改善されるとは思えませんが、初等中等教育のなかで女性の理工系進出に対する芽を育てるのであれば、大学は理科教育の終点として男女共同参画の意識を持って上流に働きかける必要があるのかもしれません。



研究者と女性

生命環境科学研究科 高野 和文 教授

私が男女共同参画に関与するようになったきっかけが二つあります。一つは、大学院時代の女性の先輩が、当時、イキイキとバリバリ研究をされていました。それに憧れて私も研究の道に進んだ面もあります。しかし、三十半ばのときに、男の価値観の中で疲れたと第一線から退かれました。もう一つは、前任校で指導していた女子院生からの進路相談でしたが、日本はまだまだ男社会で女性は+αの苦労があると回答しました。いや、そうしか回答できませんでした。今彼女は海外で活躍しています。府大には多くの女子学生・院生がいます。彼女らが日本でも輝いて研究できることを期待して、何ができるかわかりませんが、少しでもお役に立てればと思います。

学生、院生、研究者のネットワークづくり

生命環境科学研究科 リントウルオト 正美 准教授

委員会では大学院生、PD、OD、若い研究者の支援する「あおいプロジェクト」の担当をします。大学院や若い研究者としての将来や研究に対する悩みなど女性に限ったことではないのですが、女性だからこそ感じる不安、悩みもあることと思います。研究室に所属しているとどうしても世界が狭くなってしまいがちです。同じ境遇にいるもの同士で年齢や学年に関係のないネットワークを作り、さまざまな情報の共有や精神的支えとなるような人の「輪」を作っていきたいと思っています。

男女共同参画推進委員会委員としての抱負

事務局長 稲村 智史

平成25年度女性研究者研究活動支援事業の採択を受け、本学の男女共同参画の取組が本格的に推進されることになり、委員として指名を受けました。私の場合、長年京都府の行政に携わり、比較的問題意識は高いとは思いますが、造詣が深いという訳ではありません。京都府等の行政との調整や事務局の代表として取組の円滑な推進をサポートできればと思っています。また、今回は女性研究者支援が中心ですが、本学は事務職員等も女性が大変多い職場でもありますので、取組が全学に拡大していくよう尽力したいと考えています。

多様性を活かしたしなやかな社会を

男女共同参画推進室コーディネーター 鈴木 暁子

この度、ご縁を頂き、着任いたしました。行政機関、NPO、シンクタンクを経て、本学が4つ目の職場になります。人口減少社会における持続可能な地域社会づくりをテーマに、移民政策やダイバーシティに関わる政策提言を行ったり、CSRを切り口に企業と地域社会をつなぐ事業に関わってきました。

男女共同参画というと、とかく堅苦しく考えがちですが、男性も女性も、今までの固定観念にとらわれない生き方が選択でき、能力が発揮できる職場で働くことができる、そんなしなやかな社会づくりに、女性研究者研究活動支援事業を通じて関わることをできることを楽しみにしています。よろしくお願いします。

活動報告

■第1回あおいサロンを開催。

テーマ 「キャリアデザインと仕事観」—府立大OGが語る、スマートワークとは—

スピーカー 田畑真理さん 大阪ガス(株)人事部ダイバーシティ推進チームマネージャー

日時 2014年2月5日(水)

※「あおいサロン」は先輩に出会い将来の働き方・生き方のヒントを得る少人数のサロンで毎回ゲストをお迎えします。

■研究支援員制度が始まりました。

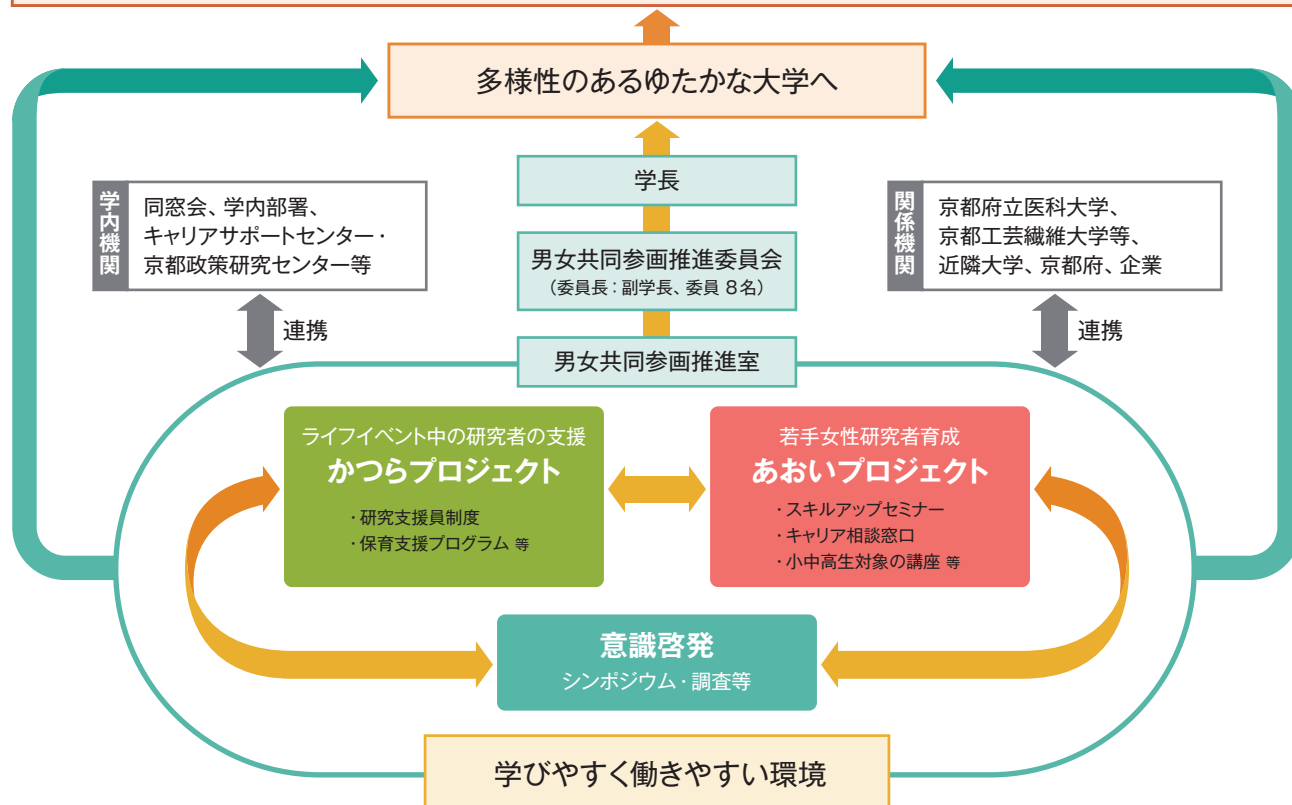
平成26年度も募集を行います。

■保育支援プログラムを開始しています。

■京都府立大学卒業生・修了生就業状況調査のご協力ありがとうございました。



研究者・若手研究者・学生・卒業生が支えあうネットワークづくりで、
地域社会の発展への貢献



3つの柱を通して、性別を問わず、研究しやすく働きやすい、多様性を認め合うゆたかな大学をめざします。

研究者支援事業 (かつらプロジェクト)

子育てや介護等のライフイベント中の研究者を対象に、両立支援を行います。

若手研究者支援事業 (あおいプロジェクト)

若手女性研究者を対象に、キャリア形成の支援を行います。

意識啓発活動

地域社会との連携により男女共同参画社会の実現に向けた啓発活動を行います。

お知らせ

京都府立大学男女共同参画推進室開設記念
キックオフシンポジウムを開催します。

- テーマ** 大学における男女共同参画・女性研究者支援の推進に向けて
- 日時** 2014年2月27日(木) 14:00~17:00
- 場所** 本学 大会館2階多目的ホール
- 内容** 1. 講演
山村康子氏 (独)科学技術振興機構科学技術システム改革事業 po主管
北川慶子氏 佐賀大学文化教育学部教授、男女共同参画推進室室長
2. パネルディスカッション
山下満智子氏 大阪ガス株式会社エネルギー・文化研究所研究員
長島啓子 本学大学院生命環境科学研究科助教
小沢修司 本学公共政策学部教授

編集・発行

京都府立大学 男女共同参画推進室

〒606-8522 京都市左京区下鴨半木町 1-5 (1号館3階)
TEL : 075-703-5143 E-mail : danjo@kpu.ac.jp

